

モール・オブ・アメリカ

何でも最大が好きなアメリカ人が考えそうな話だが、ミネソタ州のミネアポリスには、一つの建造物としては文字通り最大のモールがある。ショッピング・センターをバカでかくしたようなモールで、ほぼ正四角形で4つの角には、それぞれ、シアーズ、メイシーズ、ブルミンデール、ノーストラムといった、モールといえば定番のストア大手が占め、四角の回廊には520軒以上の小売店が並び、内側は、ジェット・コースターもある遊園地やショウ、映画館がある。2階、3階には本格的レストランあり、コンビニ風手軽なテイクアウトあり、家族ずれで一日遊べて、買い物もでき手軽に食事も出来る、という一大モールとなっている。モールの近くには、駐車場と、モール専用のホテル・モテルがずらりと並んでいる。何故、こんなモールを見に来たかということ、仕事をしていた時、日本から小売販売流通関連の視察に来るといって大概このモールに行くと言ったので、一度見てみたいと思ったのが寄った動機である。





モールの中
の遊園地

来てみて感じたのは、コスト・パフォーマンスからいうと大赤字ではないだろうかということだった。実際に買い物をしている人を見るのは稀で、大抵はブラついているように思えたのだ。食堂もまばらで、これでは働いている人の給料が出ないのではないかと、密かに心配にもなった。でも、後で、色々聞いてみると、冬、なにも無いところで、週末家族が皆で楽しめる場所としては、トップなのだ、ということらしい。私が何も心配することではないかも知れない。

センチメンタル・ジャーニー

ミネソタ、ウィスコンシン、イリノイと来るにつれて、私の旅も、四ぶんの三以上は消化して、イリノイに入ったのは、9月3日。シカゴの北西のバッファロー・グローブは日本企業が多く、以前出張で年に三回ほどは来ていたのだが、お客様がカリフォルニアに移転してからは10年ほどは来ていなかった懐かしいところだ。ここは最初に来た頃は開発前で、一面の原野が広がっていたのだが、それが、みるまに開発され企業の建物が増え、マリオットのホテルをはじめとし各ホテル・モテルが進出し、今では近郊都市となっている。それでも、近くのロング・グローブ・ビレッジは古きよき時代の面影を残して、馬車の時代の村のお店屋さんといった通りをつらねている。訪れた日はアイ

リッシュ・ディ。少女達のアイリッシュ・ダンスを見ていると、高校時代の運動会で踊ったメロディを思い出す。このヴィレッジには、小説「マディソン郡の橋」に出てきたような屋根付きのカバード・ブリッジもあって、私にとっては文字通りのセンチメンタル・ジャーニーとなった。



ナイアガラの滝

シカゴを発って東に行く。イリノイでNYを思い出したのは高速料金所である。NYを発ってペンシルバニアまでは、料金所を通った記憶があるが、その後アメリカ大陸をグルッとまわって、このイリノイまでは、高速料金を払った記憶がない。大陸の内部、は判らないが、どうも料金を取るのは北西州が多いみたいである。イリノイ、インディアナ、オハイオと何処も料金を徴収された。西の州が懐かしい。オハイオ州で一泊して、ナイアガラについたのは9月6日。今まで何度かナイアガラの滝には来ているがカナダ側に入ったことが無かった。今回カナダにも入ってみよう。持ってきたパスポートの出番である。アメリカとカナダを繋ぐ橋をわたる。

国境では、若い女性のカナダ入国管理官がいかめしい顔をしている。

「生まれは？」という質問が来た。

「満州」と答えながら、この若い人に満州とって判るだろうかと若干不安になる。

「入国目的は？」

「滝を見るためです。」

「何故？」といわれても。

「カナダ側の方が綺麗だと皆が言うので。」としか言いようが無い。

これでパス。

実際カナダ側から見る滝は、ゴージャスで美しかった。これはカナダ側が滝に沿って眺望ルートを完備し公園なども綺麗に整備している為かもしれない。

帰る前には関税抜きのお酒の買えるデューティー・フリーの店に寄り、カナダのアイス・ワインを買う。アメリカ側に戻る時は、今度はアメリカの入国管理官で腹の出たおじさん。

「カナダにはいつ来たの？」

「今日です」

「何しに？」

「無税のお酒を買う為」

笑って、オーケー。ああアメリカ人は楽だ。

メイン州のポートランド

ナイアガラに着く迄は、翌日はNYに帰ると漠然と考えていた。ところが、ホテルで旅の足跡マークをつけていると、俄然この儘帰るのは芸が無いと思い始めた。そうなるとうとう帰りたいという思いが募り、改めてアメリカ全土の地図を眺めてみる。いっそのこと、北の東海岸に行ってみよう。そう思ってメイン州をみてる。ポートランドという街に眼が行った。語呂合わせみたいではあるが、西のオレゴンと、東のメイン、両方のポートランドを踏破というのも、画龍点睛(?)いいではないか。途中

のホテルは、マサチューセッツにしよう。早速ラップトップを開けてホテルを探す。幸いポートランドと、スプリングフィールドに宿が取れた。これで決まり。翌日はI-90に乗って、NY州庁のあるオルバニーを通り、本来ここを南下すればNY市に帰るところを、東に針路を変えてマサチューセッツに入る。翌日はメイン州のポートランド。ここはパパ・ブッシュ家が避暑用の邸宅を持っているケネバンク・ポートの一寸北である。夏の避暑季節は終わりに近く、静かな海と浜辺が閑散とし、太陽の季節の名残を惜しんでいる。



翌朝、浜辺を散策し、これで、太平洋と、大西洋の両方で足を洗ったことになる、という思いを嚙締めた。季節は終わりといっても、海を眺めながら白ワインを飲み、ロブスター・シチューをゆっくり味わう。旅の終わりにはいつもワインがある。

ポートランドを出て、ロード・アイランド、コネチカット経由で、我が家についたのは、9月9日、午後7時半であった。

しめて、走行距離 10,024 マイル(16,038 キロ)、行程34日、通過州31州。コストは旅の前後の自動車の整備代を除いてはほぼ予定通り。喧伝されていたカトリーナの影響でのガソリン代高騰も、9月に入ってそれまでの一日平均 \$35 が、\$43 くらいになった程度であった。

旅の終わりに何時も呟く。無事これ名馬。(了)